



## 《認知症で行方不明、届け出 1 万 3 0 0 人…昨年》

認知症が原因で行方不明になり、警察が届け出を受理した人数が、2013年に約1万300人に上ることが分かった。警察庁は12年から認知症の行方不明者数を集計しており、同年は9607人だった。5月9日午前の衆院厚生労働委員会で、民主党の長妻昭議員の質問に警察庁が答えた。受理人数は集計中のため概数で公表した。届け出後の状況は明らかにしていないが、12年に所在が確認された行方不明者の4%弱にあたる359人は発見時に死亡。認知症の行方不明者が増えている問題については、厚生労働省も実態調査や対策に乗り出している。この日の衆院厚労委でも、田村厚労相が「警察だけでなく、自治体や地域包括支援センター、タクシー会社など多様なネットワーク作りが重要」と発言。各地の先進的な取り組みを全国に発信するなど、対策を強化する考えを示した。※5月9日読売新聞参照



## 認知症で行方不明 何度も繰り返す実態

認知症やその疑いがある行方不明となる人が年間1万人に上っている問題で、NHKが、行方が分からなくなったことがある120人余りの家族にアンケートを実施。行方不明になった回数は平均で6.3回に上り、何度も繰り返されている実態が明らかに。認知症やその疑いがあり、徘徊などで行方不明になったとして、警察に届けられた人は、一昨年1年間に全国でおよそ1万人に上り、この内およそ350人の死亡。NHKは詳しい実態を明らかにするため、行方が分からなくなったことがある全国の125人の家族にアンケートを行った。その結果、行方不明になり、警察に通報したり家族などで捜したりした回数は、平均で6.3回に上ることが判明。また、全体の78%が行方不明を複数回経験していて、最も多いケースで70回あったと答えるなど、行方不明が何度も繰り返されている実態が明らかに。

また、捜す際、警察や周囲に協力を求めることに、ためらいがあるかどうか尋ねたところ、「大いにある」と「どちらかと言えばある」を合わせると、74%に上りました。実際、警察のほかに誰に協力を求めたか複数回答で尋ねたところ、「家族・親戚」が68%と最も多くなっているのに対し、「ケアマネジャー」や「近所の人」といった家族以外はいずれも20%台にとどまった。認知症に詳しい、認知症介護研究・研修東京センターの永田久美子部長は、「行方不明が繰り返されているにもかかわらず、SOSを出せず苦慮している家族の姿が浮き彫りに。問題を家族だけに押しつけず、社会全体で解決を図っていく本格的な対策を、国や市町村は急ぐべき」と話す。※5月11日NHK放送参照

《回覧》

A	B	C	D	E	F	G